

PROLOGUE

木二中 学校だより No.19 令和6年9月27日
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



物事を成就させる方法はただ一つ。それは「覚悟すること」だと思います。

これはPROLOGUE No. 17で紹介した書籍「覚悟の磨き方」の中にある吉田松陰の言葉(超訳)です。

支部新人大会が概ね終了し、好成績を修めた部活動もあればそうでなかった部活動もあるでしょう。個人競技も同様ではないかと思えます。また、3年生はいよいよ「高校受験(検)」が現実味を帯びてきました。

10月になれば令和6年度も後半戦。日を追う毎に令和7年度が見えてくる、という時期となります。1年生は先輩と呼ばれるに相応しい姿に成長できているだろうか? 2年生は最高学年として近未来の自分自身を思い描くことができているだろうか? 3年生は高校生になっている自分を想像できているだろうか?

当たり前ではあるけれど、中学生である皆さんは、様々な立場の大人たちに守られて生活を送っています。一番身近にいるのは保護者であり、学校に来れば先生であるように、皆さんの周りにはいろいろな立場の大人が必ず見守ってくれています。

しかし、近い将来、皆さんは自らの力で人生という旅路を歩んでいかなければなりません。時に誰にも頼ることなく自らの意思で決断し、自ら行動を起こさなければならないこともあるでしょう。

令和6年度の後半戦を迎える節目に、ほんの少しでいいからこれまでの自分の人生を振り返ってみてください。たかだか10年ちょっと、数多くの大人に見守られているとはいえ、それぞれ立派に歩んできたはずの人生を振り返ってみてください。

物事思い通りにならなかった時にどうだったか? 逆にうまくいった時にどうだったか? それぞれ個人差はありながらも、誰もがそれら(様々な事)に折り合いをつけて今があるのではないだろうか。中には折り合いがつけられずにいる人もいるかもしれません。いいんです、それでも。まだ今は中学生だから。

いずれにしても一つだけはっきり言えることは、生きている以上、人生には痛みがともなうということ。転んで膝をすりむいたら痛いように、長い人生を生きていれば心が痛くなることなんて普通に起こるのが当たり前だということ。そして、皆さんはいつまでも中学生ではいられないということを忘れてはならない。どういうことかわかりますか? 今はまだ思い通りにならないことに折り合いがつけられなくても、自らの決断を基にして立ち上がらなくてはならない時が必ずやってくるということです。

学校は、転ばない方法を学ぶところではなく、転んでから立ち上がる方法を学ぶところ。思い通りにならない時にこそどう折り合いをつけて前に進んでいくのか。そこから何を感じ、どう対処して次に生かしていくのか。物事を成就させるためには、「覚悟すること」が大切なんだと思います。

恵まれた環境の中で頑張る人はいくらでもいる。そうでない環境で頑張れるからこそ強くなる。吉田松陰は冒頭の一節の前に、そう記しています。

未来の先生奮闘中! 大学生3名が教育実習

今週24日から本校卒業生でもある3名の大学生が、教育実習生として研修を重ねています。それぞれ教科は違えど、教員採用一次試験を突破しており、二次選考の結果待ちであるとのこと。全員がペーパー教師ではなく来年4月から実際に教壇に立ちたいと考えている志高き学生さんたちです。

教員不足、働き方改革、世の中でいろいろ騒がれる「学校の先生」ですが、その中であっても「私は教師になりたいんです。」という「覚悟」が大いに感じられます。

皆さんの先輩でもあるわけですから、これをいい機会にいろいろ話しかけてみてはどうだろう?

「教師になる、という覚悟はいつ? どこで? どのように?」

「そのために取り組んできたことは? 何を? どうやって?」 などなど。

年齢も近い先輩が将来の夢に向かって奮闘している姿は、中学生である皆さんにとってもきっとよい刺激になるはず。夢は何であれ、覚悟を決めた者の一挙手一投足を中学生である皆さんには、ぜひ目に焼き付けてほしいと思います。